

2020年12月11日

北近畿経済新聞(4面)に掲載されました

日東精工

素形材産業に貢献

山本浩二さんが表彰受ける

異種金属の接合技術を開発した日東精工(株) (本社・綾部市井倉町、

舞鶴市出身の山本浩二さん(35)が、今年度の「素形材産業技術賞」(一般財団法人素形材センター主催)で入賞を果たした。ねじ製造で培った同社の技術を応用することで特殊な金属部品の量産を

実現し、素形材産業の技術向上に貢献したと評価を受けた。舞鶴市出身の山本浩二さんは同市の京都職業能力開発短期大学校でプログラミングなどを学び、2007年にねじなどを作る同社に入社した。製造現場で1年ほど働いたのち配属されたのが、今も在籍す

る技術部。金属製品の開発は同校で専攻したことと異なる分野だったが、置かれた環境で自身の能力を発揮しようと心掛けた。

部署内の大半の社員は、金属加工の専門的な知識を持つ。周囲と同じように仕事をしていては埋もれてしまうと考え、得意とする情

報処理に注力。様々な加工や試験の結果をデータベース化しながら生み出した技術が、異なる金属を接合する「AKROSE(アクローズ)」だ。

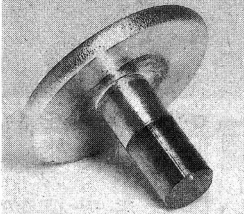
近年、軽量化や高強度化を図るため、複数の素材を組み合わせる「マルチマテリアル」のニーズが高まっている。同社にも異種金属を接合した部品の要望が寄せられ、山本さんは16年に開発に着手。積み重ねたデータから、ねじの製法である「冷間圧造」の活用が頭

異種金属接合技術を開発



素形材産業技術賞で表彰を受けた山本さん(右)と手島さん=綾部市井倉町

アクローズの技術で作る金属部品



「冷間圧造」の活用が頭

特許取得、車の電池部品に

更にも同部の手島政和さん(42)の技術を掛け合わせ、原子レベルにまで密着性を高めた「AKROSE HYBRID(アクローズハイブリッド)」を開

発。今年10月から販売が始まった。東京都内で先月、素形材産業技術賞の表彰式があり、山本さんは開発者代表、手島さんは共同開発者として「一般財団法人素形材センター会長賞」を受賞。山本さんは「要求が高い自動車業界で使われているので自信が持てる技術」と胸を張り、手島さんは「電池部品以外の分野にも広げていきたい」と力を込める。

「樋口」